

連載コラム「つたえること・つたわるもの」№187

メトロ駅名、案内表示、車内放送はフランス語。券売機は4言語に対応。

健康ジャーナリスト 原山建郎

今週末、パリ五輪（第33回夏季オリンピック競技大会）の開会式が、7月26日19時30分（日本時間27日2時30分）から、各国選手団を乗せた90隻あまりの船がパリの中心を流れるセーヌ川（La Seine）をパレードしたあと、エッフェル塔近くの「トロカデロ広場」行われる。パリ五輪（日本選手団409名）の競技日程は17日間（現地時間7月26日～8月11日。以下同じ）。それに続くパリパラリンピック（日本選手団160名）の開会式（8月28日）は、パリの中心部にある「コンコルド広場」と「シャンゼリゼ通り」で行われる。競技日程は11日間（8月29日～9月8日）である。

今を去ること52年、そのころ『主婦の友』編集部4年目の編集記者だった私は、長めの夏休みをとって、フランス留学中の従兄弟に会うため、イギリス（ロンドン）経由で、当時はまだユーロ（英仏海峡）トンネルがなかったドーバー海峡を連絡船で渡って、花の都・パリに到着した。

パリのお上りさんである私は、大学で学んだ「ただとどしい」フランス語を使って、シャンゼリゼ大通りのお巡りさんに、従兄弟から紹介されたモンパルナスの宿屋への道を尋ねると、〈お前のフランス語はわからない〉とばかりに両肩をすくめる。仕方なく、次に英語で道を尋ねたが、またしても〈お前の英語はわからない〉と言いたげに肩をそびやかし、そのまま向こうへ行ってしまった。

その後、パリ滞在中はおもにメトロ（地下鉄）を利用したが、駅名や案内表示、車内放送はもちろんすべてフランス語なので、Sorutie（ソルティエ：出口）、Correspondance（コレスポンダーンズ：乗り換え）などの案内表示を見ながら、ときに迷いながらパリ市内の観光を楽しむことができた。

また、オペラ座近くの映画館で『男はつらいよ』シリーズの日本映画を観たが、フランス語ペラペラのフーテンの寅さん（フランス語吹替版）には驚いた。

現在のパリ・メトロについて、日本地下鉄協会のHPには、「券売機には多国語表示機能があるが、車内放送・案内表示はフランス語のみ。目的地に行くには路線番号と終着駅の表示のみ。」と説明されていたので、早速、パリ・メトロの券売機情報をWeb検索してみると、「tuchez l'écran（トゥシェレクラン：画面にタッチ）」の表示と、右側に4つの多国語（→English, Espanol, Deutsch, Italiano）表示があった。そのまま画面にタッチするとフランス語が表示され、多国語を選択するとその外国語が表示される。選択できる多国語もヨーロッパ各国の言語への対応なので、日本語、中国語などアジア圏の言語対応はない。

これら4つの言語が、日常的に使用されている国がいくつあるか、調べてみた。

- 英語（English）：イギリス、アメリカだけでなく、カナダ、オーストラリア、シンガポール、フィリピンなどで使われている。
- スペイン語（Espanol）：スペインだけでなく、中南米のメキシコ、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマ、キューバ、ドミニカ共和国、プエルトリコ、ベネズエラ、コロンビア、アルゼンチン、ペルー、チリ、エクアドル、ボリビア、パラグアイ、ウル

グアイ、アフリカにある赤道ギネアなどで公用語として使われている。

○ドイツ語 (Deutsch) : ドイツだけでなく、オーストリア、スイス、リヒテンシュタイン、ベルギー、ルクセンブルクでも、ドイツ語が公用語となっている。

○イタリア語 (Italiano) : イタリアだけでなく、アルゼンチン (人口の 65%以上がイタリア系)、ベルギー、ルクセンブルク、ブラジル、カナダ (モントリオールのイタリア語圏)、クロアチア、リビア、モナコ公国、ソマリア、スイス (ルガーノのイタリア語圏)、マルタ島などで使われている。

ちなみに、フランス語を公用語、あるいは日常語として使用している国々は次の通りである。

○フランス語 (Français) : フランスだけでなく、アフリカの国々、スイス、ベルギー、ルクセンブルク、カナダ、アルジェリア、モロッコ、チュニジアなどで使われている。

また、日本の券売機表示を確認するために、都営浅草線の東銀座駅を調べたところ、券売機が「8カ国語 (日本語、English、簡体中文、繁體中文、한국어、Français、Español、ภาษาไทย) 選択」の多言語対応表示になっていた。さきのパリ・メトロと同じように、これら8カ国語が日常的に使用されている国を調べてみた。(すでに紹介した英語、フランス語、スペイン語については省略する)

○日本語 (Japanese) : 日本で使われている。なお、西太平洋にあるパラオ共和国のアンガウル州では、パラオ語、英語とともに、現在でも日本語が公用語となっている。

○中国語 (Chinese : 簡体中文、繁體中文) : 台湾 (繁體中文)、中国・香港・マカオ (簡体中文) では公用語。シンガポール、マレーシアにも中国語話者が多い。

○韓国語 (한국어 : Korean) : 韓国、北朝鮮で使われている。

○タイ語 (ภาษาไทย : Thai) : タイ、ラオス、ミャンマー (旧ビルマ) などで使われている。

これは、2020 (コロナ禍の影響で、実際の開催は2021年) 東京五輪・パラリンピック開催を機に、都内を訪れる外国人観光客の増加を予測して、都営地下鉄の駅構内では大型画面を備えた、新しい8言語対応の切符券売機の設置を進めた結果であるという。

2020 東京五輪・パラリンピック誘致のキャッチフレーズ「お・も・て・な・し」精神で、五大陸すべての人々へ「つたえること」が、きちんと「つたわるもの」をめざす心配りのひとつである。

同じように、JRほか民営鉄道各社の駅名・案内表示では、ほぼすべての駅で日本語 (漢字とひらがな) と英語 (ローマ字表記) の駅名表記が、出口などの乗り換え案内表示には4カ国 (日本語、英語、ハンデル、簡体字、繁体字) 表記が一般的である。また、近年では、トイレ (洗面所) や非常用出口、消化器、立入禁止区域などを示す「ピクトグラム (絵文字や絵単語など、見た目で見える案内用の図記号)」の多くが、世界共通のユニバーサル (誰もが利用できる) デザインとして普及している。

ところで、「多言語表記」をキーワードに Web 検索すると、『街角の中国語—中国語誤訳の類型』 (保坂律子・郭雲輝著、お茶の水女子大学中国文学会報第 40 号、2021 年 4 月 17 日) と題する論文がヒットした。中国からのインバウンド (来日観光客) 増加に伴って、これまでは日本語と英語のみ

だった案内や掲示、注意書き、メニューなどに中国語の表記が急増しているが、中国人には「おかしい」中国語表現も少なくない。同論文には「街中でみかける中国語が〈おかしい〉理由を考察し、中国語誤訳の種類としてまとめ、日本語の意図を正しく中国語に訳出する一助とする」と書かれている。

「誤訳（の定着）」といえ、本来の英語を日本風に超訳した「和製英語」（ボタン・パス→ボタン・タッチ、ラップトップ・パソコン→ノート・パソコン、タッチ・タイピング→ブラインドタッチ）があるが、こちらはもう立派な「カタカナ語」としてすでに「日本語」化している。

この論文が正しい中国語の語訳としてとりあげた、①英語を介した誤訳、②日本語と同じ語順にした間違い、③日本語の意味を間違えている中国語訳、④不要な主語を加える間違い、の中から、その一部を引用しながら、いわば「和製中文」ともいべき語訳について考えてみよう。

文中の×は誤訳、○は正しい中国語である。

① 英語を介した誤訳

★「マスク」×“面具”→○“口罩”

ドラッグストアで販売されている衛生用品のマスク、これをおそらく機械翻訳したことによる誤訳。日本語の「マスク」は“mask”（お面、仮面、覆面）と認識される。“mask”の中国語訳は“面具”であるから日本語では「お面」になってしまい、日本語のマスクの意味は訳されていない。「マスク」の中国語は“口罩”としなければならない。

② 日本語と同じ語順にした間違い

★「撮影禁止」×“照相禁止”→○“禁止照相”、“禁止拍照”

この例も日本語の中国語訳“照相”「写真を撮る、撮影」、「禁止」「禁止する」は正しいが、日本語の語順のまま“照相禁止”としている。ここでは「撮影を禁止する」であるから中国語で動詞、目的語の語順にしなければならない。正しい中国語訳は“禁止照相”、あるいは“禁止拍照”である。

③ 日本語の意味を間違えている中国語訳

★「食器返却棚」×“餐具归还搁板”→○“餐具回收架”、“餐具回收处”

ここでは日本語「返却」が本来の意味とは違って使用されている。「返却」とは「図書の返却期限」のように、借りたものや預かったものを「所有者に返す」ことである。その意味では「返却」の中国語訳“归还”は正しいが、ここでは「食後の食器を回収する、戻す」で「返却する」ではないから“归还”ではなく“回收”が正しい。また中国語“搁板”は「棚」ではなく「棚板」の意味である。棚やラックは“书架”「書棚」、「行李架」「（電車の）網棚」のように“～架”を使う。ここは使用後の「食器の回収棚」、「食器の回収場所」であるから正しい訳は“餐具回收架”、または“餐具回收处”である。

④ 不要な主語を加える間違い

★「飲めません」×“我不能喝它。”→○“此水不能饮用”

この中国語訳から日本語の意味を推し量ると「私はそれを飲めない」となり意味が通らない。もちろんお腹を壊すことを覚悟するなら飲めるだろうが、意図は「飲料水ではない」ことを知らせるこ

とにある。したがって「飲めません」の主語は「この水」であり「私」ではないのは明らかであり“我”は不要、“此 水不能饮用”とするのが正しい。

★「お帰り口」×“你退出”→○“出口”

中国語“退出”は「退出する」、「立ち去る」、「抜ける」の意味で「帰る」意味は持たない。ここでは観覧者である“你”「あなた」を主語として加え“你退 五九（107）街角の中国語—中国語誤訳の類型—出”として中国語では「君は退出しなさい」、「君は出場を取りやめなさい」と命令になってしまった。「お帰り口」は中国語“出口”で十分である。

（『街角の中国語—中国語誤訳の類型』89～107 ページ）

かつて低音の魅力で鳴らしたフランク永井の持ち歌、『パリの空の下セーヌは流れる』（原題は *Sous le Ciel de Paris Coule la Seine*、ジャン・ドルジャク 作詞、井田誠一 訳詞、ユベール・ジロー 作曲）の歌詞2番を一緒に口ずさみながら、パリオリンピック・パリパラリンピックの成功を祈ろう。

パリの空 晴れわたり ウーウー／リラのかおり あふれる街／あの屋根にも この屋根にも
ウーウー／つばさよせる 恋の小鳩／パイプくわえた ただひとりで／セーヌのほとり 歩く
男／何をなやみ 何をおもう ウーウー
きょうも パリの空の下を ウーウー／セーヌはゆき 静かにゆく

★Vive les Jeux Olympiques de Paris (パリ五輪・パリパラリンピック 万歳！)